



2022 年 7 月 25 日発行

オーストラリアの提携校とのオンライン交流

- ◇期日: 令和 4 年 3 月 30 日(水)
- ◇場所: 36H・37H教室
- ◇参加者: 2年生8名、1年生5名
- ◇指導者: 阿部先生



3月30日(水)にオーストラリアの提携校 St. John Paul College とのオンライン交流が行われた。毎年この時期に行われるオーストラリア研修は昨年度に引き続き中止となったが、この交流に参加した 13 人の生徒は自己紹介をしたり普段の生活について話合ったりして交流を楽しんだ。

現地の生徒と会話することはもちろんのこと、Zoom を用いたオンライン交流であること、普段勉強している英語と異なる、オーストラリア独特のイントネーションで話されることなど、初めての体験で戸惑うことも多くあった。しかし、オーストラリアの生徒の皆さんが明るくフレンドリーに対応してくださったおかげで、短い交流の時間ではあったものの非常に充実した時間となった。

福井県合同課題研究発表会 参加報告

- ◇期 日 令和 4 年 3 月 13 日(日)
- ◇場 所 福井県立高志高等学校(本会場)
本校探究ゼミ室(オンライン参加)
- ◇参加者 SS 生物部生徒 8 名
- ◇指導者 SS 生物部顧問 真野佳余先生

福井県合同課題研究発表会とは、主に福井県内の学校で課題研究に取り組む生徒を対象とした研究発表の場である。今年度は新型コロナウイルス予防のため、全ての分科会発表の部が Zoom を用いたオンライン開催となった。



本校からは 4 班がそれぞれ「共生ハゼとテッポウエビ類の共生関係について part2」、「いたち川における環境 DNA を用いたトミヨの生育調査」、「カメの学習能力について」、「米ぬかはバイオエタノールの材料になりうるか」という題で研究発表を行った。

発表の手段が例年と異なるなかでの発表だったが、今後に活かし得る学びを多く得た。積極的に質問し合うことで、他の発表者とも高め合うことができたと思う。また、オンラインでの発表については、今後も同様の機会があると考えられるため、部員全員が情報機器を十分に扱える技能を習得しておくことが必要だと感じた。

令和 4 年度 水産学会春季大会報告

- ◇期日: 令和 4 年 3 月 28 日(月)
- ◇場所: 日本大学(大会本部)、本校探究ゼミ室(オンライン参加)
- ◇参加者: SS 生物部員 12 名
- ◇指導者: SS 生物部顧問 真野佳余先生

日本水産学会春季大会は、全国の高校や大学、研究機関を対象とした、水産学や水圏の生物学、環境学などに関する研究発表を行う大会である。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で Zoom を用いたオンラインでの開催であった。



本校からは、「共生ハゼとテッポウエビ類の共生関係について part2」、「いたち川における環境 DNA を用いたトミヨの生息調査」、「ドクターフィッシュの食について」、「カメの学習能力について」という題で 4 つの班がそれぞれ発表した。質疑応答では、他校の生徒や大学の教授からの予期していなかった質問に戸惑い、的確に返答するのが非常に難しかったが、新たな視点からの質問や意見は、今後の研究や発表の参考になった。

2 学年講演会 報告

- ◇期 日: 令和 4 年 5 月 24 日(火)13:30~15:30
- ◇場 所: 至誠ホール
- ◇参加者: 2 学年 普通科文系・人文科学科 106 名

「親の離婚と子供: 心理学の立場からの現状と課題」というテーマで富山大学学術研究部人文科学系専任講師の直原康光先生にご講演いただいた。



日本では、年間約 20 万人の子供が親の離婚を経験しており、親の離婚により子供はどんな影響を受けるのか、また、心理学の手法によって、父母や周囲にどんな配慮ができるのかという分析ができ、現場に活かされていくということが分かった。法律や心理学は、高校では触れられない学問領域なので、まだまだ学問の世界は広いということを再確認することができた。

先生からは、英語や数学をたくさん勉強しておくほうがいいというアドバイスや、高校生活では、様々なことを経験してみてくださいという激励の言葉もいただいた。

記事の詳細は、本校ホームページをご覧ください

www.chubu-h.tym.ed.jp

SS講演会 報告

- ◇期 日: 令和4年5月30日(月) 13:30~15:30
 ◇場 所: 至誠ホール
 ◇参加者: 2年理系・理数科学科2年生 171名、
 1年探究科学科 80名 計251名

「コロナパンデミックとmRNAワクチン」と題して、新潟薬科大学客員教授の古市泰宏先生による講演会があった。

今回の講演では、mRNAワクチンにおけるキャップ構造の重要性について説明して下さった。今使われているワクチンの有効性や、ワクチン内部のメカニズムについて、多くの新しい知識を得ることができた。特に、ワクチンのキャップがない場合、ワクチンの接種や、様々な重要な現象を発見できなかったことにとっても驚いた。また、講演では、専門的なことだけではなく、日頃私が生きていく中で大切にすべきこと等も教えていただいた。



2学年 SS 発展探究第1回課題研究指導報告

- ◇期 日: 令和4年6月17日(金) 5・6限
 ◇場 所: 本校各実験室、ゼミ室、図書館等
 ◇参加者: 2年探究科学科 生徒79名

4月から取り組んできた課題研究について、富山大学の先生方に指導・助言をいただいた。これから研究をどう進めていくかという大事な局面で、第一線で活躍されている研究者の視点からアドバイスをいただける貴重な機会になった。

「先生の助言をいただきながら、具体的に今何をするのか、どんな考察をするのか考えることができた」「先生に研究とはどういう風に進めていけばよいのかというアドバイスをいただけた」といった感想が聞かれた。研究のこれからの方向性が定まってきた。次回の課題研究指導では先生方に良い成果を報告できるよう、これからの探究活動に励んでいきたい。



1学年 SS 基幹探究の取り組み 報告

- ◇期 日: 令和4年4月12日(火)~6月21日(火)の月・火・木曜日
 ◇場 所: 本校教室・理科実験室・図書館・探究講義室

1学年探究科学科生徒80人は16人ずつ5班に分かれて、今後の探究活動に必要な「読み解く力」の育成のために、SS基幹探究「探究基礎Ⅰ」の授業で国語、地歴、数学、理科、英語の5教科の課題に4時間ずつ取り組んだ。

国語では、芥川龍之介「羅生門」と『今昔物語集』との比較を通して芥川の創作意図を探った。地歴では、身近なものから世



界を見る試みとして、地図や統計資料の読み取りをした。数学では、自然数のn乗の和の法則を考え、数学的な言葉で伝える取り組みを行った。理科では、科学現象に関する説明文の読み取りを、化学、物理、生物分野でそれぞれ取り組んだ。英語では、ウェブ上の英文記事や洋書テキストを用いて読解力や表現力を磨いた。

3年理数科学科SS発展探究発表会報告

- ◇期 日: 令和4年6月22日(水) 5・6限
 ◇場 所: 至誠ホール
 ◇発表者: 3年理数科学科生徒63名
 ◇参加者: 3年人文社会科学科生徒16名、
 本校各教科教員
 県内の国際交流に従事されている方々

県内高校のALTや富山県国際交流員9名を外部評価者としてお招きし、昨年と同様、発表から質疑応答に至るまで全てを英語で行った。この発表会に向けて英語のポスターや原稿、要旨を準備してきた。難しい内容を、英語でどう表現すればよいか、発表までの過程は困難の連続であったが、声の大きさやアクセントの工夫をするなど、少しでも相手が理解しやすいように努めた。全ての発表を終えた後、自信と達成感を得られた。



2学年普通科SS探究Ⅱ仮説設定報告会 報告

- ◇期 日: 令和4年7月5日(火)
 ◇場 所: 至誠ホール
 ◇参加者: 普通科2年生、本校教職員

今年度、普通科2年生は、富山県成長戦略に関わるテーマのもと、各クラス7~10班に分かれて科学的手法で解決策を見出す取り組みを行っている。

仮説設定報告会では、各クラスの代表班が、仮説をはじめ、研究の動機・理由、今後の研究方針などについて説明した。最後には、金沢大学准教授の本所恵先生より講評をいただき、先行研究をふまえた、「専門家の眼鏡」をかけた研究になるよう、ブラッシュアップしていくことが大事だとの助言をいただいた。



今後の行事予定

- 7月18日(月) 19日(火) / 21日(木) 22日(金)
 立山自然観察実習
 7月27日(水) サイエンスアカデミー 中学3年生コース
 新潟県生徒研究発表会(長岡)
 7月29日(金) サイエンスアカデミー科学オリンピック講座
 8月3日(水)・4日(木)・6日(土) 富山大学薬学実習
 8月3日(水)・4日(木) SSH全国生徒研究発表会(神戸)
 8月27日(土) マスフェスタ(大阪)